

NHKアイデア対決・高専ロボットコンテスト

都立産業技術高専・ものづくり工学科

都立航空高専・機械工学科 吉田喜一

高専ロボコンは1988年度から始まり、2008年度で21回目です。私は2003年度・第16回目からNHK高専ロボコンの競技委員会・専門委員を仰せつかっています。ロボコン生みの親の森政弘先生、清水優史先生、NHK関係者と、そして高専関係者の1人として競技委員会・専門委員として関わってきました。競技ルールを決めたり、学生からの質問に対するルール解釈を競技委員会の皆さんと討論します。ロボコン本番の時は重量、寸法等の計量や時間管理・計測を行い、試合中にはインカムを使って、審判に色々指示をする係です。

前年度末に競技委員会でルールを決め、4月各高専に発表します。例年6月末頃までに各校が4つ以内のアイデアを提出し、7月に競技委員会が2つを選びます。アイデアが不明な場合には再提出を求めます。学生諸君はどの高専も『夏休み』返上で設計、製図、部品加工、組み立て、調整、改良、再設計・・・を繰り返します。10月から始まる地区大会（北海道、東北、関東信越、東海・北陸、近畿、中国、四国、九州・沖縄の8地区）で優勝したマシンと審査員推薦チームが全国大会に出場します。九州場所で国技館が空いている千秋楽の日に全国大会が行われます。その模様は年末・年始にNHKで繰り返し放送されます。秋からから冬にかけて地区大会、全国大会参加で3、4回の土・日がつぶされます。

ここで高専ロボコンの理念について清水優史先生の文章を紹介します（日本機械学会誌・メカトップ関東07年1月号）。『我々が目指しているコンテストは、新しく参加する人が全力で自らの案作りに挑戦できるよう、過去4年ほどの案や技術が使えないようなテーマを作る努力をしている。結果としてテーマ作りは年々困難になる。そしてそれと同時に難しい内容になるのである。』。ここに高専ロボコンの特徴があります。

この間の高専ロボコンのテーマと優勝校、ロボコン大賞校を紹介します。来年がどんなテーマになるかご期待ください。そして年末・年始の高専ロボコンの放映をお楽しみください。実践的技術教育、総合型エンジニア養成、Know How 形エンジニア養成、最近では課題解決型技術者養成が高専教育の本質とうたわれていますが、高専教育の成果をテレビでご覧ください。

